

9 農薬耐性菌検定実施状況

(1) 対象病害：灰色かび (*Botrytis cinerea*)

(2) 検定薬剤：菌糸生育度調査………プロシミドン剤、フルジオキシソニル剤、アゾキシストロビン剤、ピリベンカルブ剤
 胞子発芽阻害度調査…メパニピリム剤、ペンチオピラド剤

(3) 対象作物、検定法および結果

作物	検定結果 (耐性菌株/検定株数)	検定法	防除効果
トマト	プロシミドン剤 中度耐性 38.8% (23/60) メパニピリム剤 感受性低下 15.0% (9/60) ペンチオピラド剤 感受性低下 75.0% (45/60) フルジオキシソニル剤 耐性 0% (0/60) アゾキシストロビン剤 耐性 68.3% (41/60) ピリベンカルブ剤 耐性 0% (0/60)	培地：メパニピリム剤 FGA平板培地 ペンチオピラド剤 YGA平板培地 アゾキシストロビン剤 ピリベンカルブ剤 SHAM 1 mM添加PDA平板培地 上記以外の薬剤 PDA平板培地 培養温度：20℃ 培養時間：メパニピリム剤 96時間 ペンチオピラド剤 168時間 上記以外の薬剤 48時間	プロシミドン剤に中等度耐性を示す菌株およびペンチオピラド剤に感受性低下を示す菌株は昨年度より増加した。アゾキシストロビン剤に耐性を示す菌株は依然として割合は高かった。メパニピリム剤の感受性低下菌は昨年度と同程度であった。ピリベンカルブ剤、フルジオキシソニル剤の耐性菌は認められなかった。
イチゴ	プロシミドン剤 中度耐性 47.1% (8/17) メパニピリム剤 感受性低下 52.9% (9/17) ペンチオピラド剤 感受性低下 11.8% (2/17) フルジオキシソニル剤 耐性 0% (0/17) アゾキシストロビン剤 耐性 52.9% (9/17) ピリベンカルブ剤 耐性 0% (0/21)	薬剤濃度： プロシミドン剤 5ppm メパニピリム剤 3ppm ペンチオピラド剤 1ppm フルジオキシソニル剤 0.2ppm アゾキシストロビン剤 100ppm ピリベンカルブ剤 100ppm 測定項目：菌そう直径 判定基準：	プロシミドン剤に中等度耐性を示す菌株は昨年度より増加した。アゾキシストロビン剤に耐性を示す菌株および、ペンチオピラド剤の感受性低下菌は減少した。メパニピリム剤の感受性低下菌は昨年度と同程度であった。ピリベンカルブ剤、フルジオキシソニル剤の耐性菌は認められなかった。
花き類	プロシミドン剤 中度耐性 10.0% (3/30) 高度耐性 80.0% (24/30) メパニピリム剤 感受性低下 86.7% (26/30) ペンチオピラド剤 感受性低下 50.0% (15/30) フルジオキシソニル剤 耐性 63.3% (19/30) アゾキシストロビン剤 耐性 93.3% (28/30) ピリベンカルブ剤 耐性 0% (0/30)	下記の各薬剤濃度における菌そう生育の有無 プロシミドン剤 中度耐性 80%未満※ 高度耐性 80%以上 ※菌そう直径を薬剤無添加培地と比較 メパニピリム剤 感受性低下 3ppm ペンチオピラド剤 感受性低下 1ppm フルジオキシソニル剤 耐性 0.2ppm アゾキシストロビン剤 耐性 100ppm ピリベンカルブ剤 耐性 100ppm	ペンチオピラド剤の感受性低下を示す菌株は昨年度と同程度であった。メパニピリム剤に感受性低下を示す菌株は昨年度と比較して大きく増加した。フルジオキシソニル剤耐性菌は昨年度同様1圃場で確認され、割合は大きく増加した。ピリベンカルブ剤の耐性菌は認められなかった。

(4) 指導概要

施設的环境改善や系統の異なる薬剤のローテーション散布を徹底し、耐性菌の発生を抑制する。新規の薬剤で効果の高いものを積極的に取り入れていく。近年、花き類でフルジオキシソニル剤耐性菌が確認されてきており、今後も耐性菌の種類とその発生推移を地域、ほ場レベルで詳細に調査する必要がある。